

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【国語】授業改善推進プラン

- ◎ 「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載
- ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○感じたことや分かったことを共有するために、自分や友達の考えや思いについて相手意識をもって伝え合う場面を設け、回数を重ねることにより、相手意識をもって伝え合うことが少しずつできてきた。（話すこと・聞くこと、書くこと） ○ペアで自分の考えを伝え合ったり、クラスのみんなとランダムに感想を伝え合う活動を取り入れ+C6:E10たりすることで、話したり聞いたりする活動に意欲的に取り組むことができるようになった。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記や、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方に手拍子を取り入れることで、視覚的だけでなく聴覚的にも理解を深めることができる児童が増えた。句読点の打ち方、かぎの使い方はまだ定着していない児童がいる。 ○読書活動では、自分の興味のある本を探したり、友達が読んでいる本に興味をもったりして、自分で本を探せるよう声掛けをする。引き続き読み聞かせも行い、興味の幅を広げられるようにすることで、読書の幅が広がった児童が増えた。	○いろいろな本に興味をもって楽しく読書をしたり、読み聞かせを楽しんだりして読書に親しんでいる。 ○音読の家庭学習での取り組みを習慣化できた。様々な音読をしたり音読発表をしたりすることができた。 ○平仮名を正しく書いたり読んだりすることができるようになってきているが、長音、拗音、促音の表記、に個人差が見られる。 ○音読をするときは助詞を正しく話すことができるが、表記になると難しい児童がいる。 ○文章の読み取りに関しては、おおまかな話のあらすじを理解したり様子や心情を考えたりすることができ、発問にも答えることができるが、自分で書くとなると聞かれていることを読み取って正しく書けない児童がいる。	○語彙の量を増やし、語彙を豊かにするために朝の読書の時間や読み聞かせの時間をとり、読書習慣を身に付ける。 ○長音、拗音、促音などの表記について手拍子を取り入れて何文字で書くかの理解を深める。言葉の表記、文中の助詞の正しい使い方については、音読や試写で繰り返し練習することで、正しく書けるようにする。 ☆話型を提示して、自分が知らせたいことやその理由を話せるようにする。それに対して、感想を話したり質問したりすることで伝え合う活動を充実させる。国語の授業に限らず、話すときには主語をはっきりさせることや理由を話す際の話型などを意識できるようにする。 ○場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像できるように、劇化したり、人物の気持ちを吹き出しに書かせたりして正しく場面を読み取り、想像できるようにする。
第2学年	○単元の初めに「たいせつ」を確認することで、何を学ぶ単元なのかを意識して学習することができた。 ○「したこと」「言ったこと」にサイドラインを引けるようになり、叙述を基に登場人物の様子や場面の様子を想像できるようになってきた。（読むこと） ○構成メモを用いることで、始め・中・終わりの文章構成を意識できる児童が増えたが、個人差がある。 ○スピーチでは、原稿を読むのではなく相手意識をもって話せるようになってきた。学習用タブレット端末を活用して、個人練習を重ねた。 ○漢字を正しく覚えることについては、課題が残った。細かい部分まで正しく覚えられるようにポイントを絞って指導し、練習を積み重ねられるようにする。	○漢字の学習では、漢字ドリルを声に出して繰り返し読んだり、A1ドリルを活用して書いたりすることで覚えられるようにしている。漢字の定着は個人差があるが、課題がある児童がいる。 ○音読は継続的な取り組みしている。文章を捉えながら読むことに課題がある児童がおり、繰り返し同じ部分を読んでいる場面も見られる。 ○構成メモを使って、「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識して書く学習を行った。全体のまとまりはある程度捉えているが、文と文のつながりを意識することができていない児童がいる。 ○文学的な文章の読み取りでは、「時」「人」「場所」に着目して場面分けできるようになってきた。多くの児童が物語の設定を読み取れるようになってきたが、自分で読み取るのが難しい児童には、個別の対応が必要である。 ○相手意識をもって、スピーチすることを学習した。意識は付いてきたが、技術はまだ獲得できていない児童がいる。	○定期的に、漢字の習熟を確認するテストや復習をする時間を設定し、習った漢字を再度学習していく。また、テスト前には、授業内で学習する時間を取り、学習の仕方を学べるようにする。 ○音読をする時間を授業の中で確保し、一人読み、二人読み、グループ読み、朗読、丸読みなど、声に出して読む活動を繰り返しながら言葉を獲得させられるようにする。また、個別指導が必要な児童には、個別に時間を取り、範読をしながら本文の内容理解を深めていけるようにしていく。（読むこと） ○毎学期、構成メモを使って、「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識して書く学習を行う。3学期には、簡単な文章を構成メモを見ずに書けるようにする。（書くこと） ○文学的文章を読むときには、登場人物の「したこと」「言ったこと」にサイドラインを引く活動を行う。サイドラインを引いた中（叙述）から登場人物の様子や場面の様子を想像できるようにする。（読むこと） ○学習の際には「たいせつ」を確認し、何を学ぶ単元なのかを意識付けるとともに、ゴールまでの見通しをもてるようにする。単元の中で、活動内容が切り替わるごとに、その後の見通しを伝える。 ○毎学期、スピーチをする単元を設定する。聞き手を意識したスピーチをすること、発表者を意識して反応しながら聞くことを指導していく。（話すこと 聞くこと） ☆学習用タブレット端末を活用して、スピーチ練習の様子を撮影し、自分の姿を客観的に見て振り返ることができるようにする。
第3学年	○スモールステップで漢字を練習させたことで、定着度を高めることができた。 ○学習習慣を身に付けさせることができた。 ○自分の考えを構築し、交流する時間を設けたことで、話すこと・聞くことの力を高めることにつながった。 ○自分の考えを書ける児童が多くなったが、今後も繰り返し書く機会を設ける必要がある。 ○読み取りの方法を指導し、様々な文学教材で読み取る活動を繰り返し行わせたことで読む力が高まった。 ○図書の時間には、本に親しみ、自分の好きな本を読むことができる。今後はより一層学習用タブレット端末を効果的に活用し、お互いに感想を交流したり、本を紹介し合ったりする活動を取り入れていくと、さらに読書に親しむことができると考える。	○漢字の練習は、児童自ら「書く」「読む」「ICTを活用した反復練習」など自分に合った学習方法を考えている。漢字50問テストでは、テスト前に範囲に合わせたワークシートを準備したり、実態に合わせて再テストを実施したりすることで、定着を図った。今後も自己調整に根ざした学習ができるように支援していく必要がある。 ○漢字学習は、授業で新出漢字を学習後、毎日家庭学習で取り組んでいる。 ○物語文や説明文の学習では、言語活動の内容を授業始めに示すことで、見通しをもった学習活動ができるようにした。全文シートを活用して、文章全体の構成や内容を把握しながら叙述を根拠に考えをまとめる活動を継続的に行った。また、習熟度別にワークシートを作成し、選択的な学びができるよう機会を設定することで、一人ひとりが自分の実態に応じた課題に取り組むことができ、学習への意欲や達成感の向上につながった。 ○図書の時間には、分類的な学びを学んから、自分の読んだことがない本を読んでもみようとしていた。また、図書の時間に読み聞かせを行うことを継続したことで本への親しみをもてている。お互いの読書経験を交流し、更に読書に親しむ活動を計画していく必要がある。	○宿題や朝学習等で、漢字を定期的に練習することで、学習の定着を図る。 ○テスト前には、授業内で自主学習する時間を取り、学習の仕方を学べるようにする。 ○順序立てて話したり、聞きたいことの中心を捉えて聞いたりする学習時間を設ける。（話すこと・聞くこと） ○接続語や理由の書き表し方を指導し、見本を見ながら自分の考えを書けるようにする。 ○文学的な文章の読み取りでは、全文シートに、登場人物の気持ちの変化や性格、情景描写についてサイドラインを引かせ、場面の移り変わりと結び付ける活動を増やし、具体的に想像させていく。（読むこと） ○読み聞かせや読書ノートの活用を通して読書への興味を高めることができたが、読書ノートの記述内容に個人差があり、読んだことを深く考えたり表現したりする力の育成に課題が見られた。読み聞かせを継続しながら、読書ノートに記入する観点を示し、自分の考えや感想を具体的に表現できるようにする。また、本の紹介活動を取り入れ、多様な本に親しむ機会を充実させていく。 ☆学習用学習用タブレット端末端末を効果的に活用することで、互いの考えや感想を伝えたり、交流したりし、自分の考えを深められるようにする。
第4学年	○スモールステップで無理なく漢字を習得できるよう、指書き・なぞり書き・写し書き・空書きのステップで指導した。 ○漢字テストの定期的な実施や、やり直しの過程を意識した書き込み練習、再テストを行うことで、正確に漢字を覚えられるようになってきた。 ○文学的な文章の読み取り（白いぼうし、一つの花）では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景描写についてサイドラインを引かせ、場面の移り変わりと結び付ける活動を増やし、具体的に想像させることができた。 ○学習のまとめに振り返りを書く活動を設定したことで、接続語や理由の書き表し方を身に付けることができた。中には、それらをふまえて自分の考えを書くことができるようになった児童もいた。	○漢字の学習では、書き順・読み方・その漢字の使う熟語などを毎回確認しながら進めてきた。小テストの実施後、振り返って見直しも行い、定着を進めてきた。50問テストに関しては、早めに出題範囲を示し、それぞれが練習を行う時間を確保することで、見通しをもって取り組めていたが、児童間の差が大きく、学習の習慣を付けていくことや自主的に行うことができるようにしていく必要がある。 ○単元ごとに教科書で取り上げられている本を紹介したり、児童が手に取れるように教室に置いたりしていたが、さらに図書館の本への興味・関心を引き出していく。 ○説明的な文章の読み取りでは、文の構造や筆者の伝えたいことが書かれているところなど、説明文の読み方を児童と共に考え学んできた。しかし、説明文を学んだ後に、自分で書いてみるとなると難しいと感じる児童も多く、「自ら考えて書く」ことに抵抗感を示す児童も一定数いる。 ○図書の時間には、中学年向けの本ではなく、絵本や低学年向けの本を選択している児童も見受けられた。 ○教科書でも取り上げられているボラディアを用いて言葉を調べる方法を知り、実際に様々な言葉を調べることができた。	○毎回の漢字の学習の際に、字形や使い方などを確かめながら学ぶ。日頃の宿題での努力を認め励ましていく、また小テストや50問テストでは、実施後の振り返り、見直しからの再テストなどを通して定着を図っていく。 ○教科書にのっている本の紹介は引き続き実施していく。また、読み聞かせを行う本も絵本だけではなく、科学読み物や伝記など、様々なジャンルの紹介を意識していく。 ○「書く」ことに対する抵抗感の高い児童に関しては、書き方のヒントを提示しながらスモールステップで指導していく。 ○読書旬間を通して、本への興味を引き出すことや、多くの本の紹介や教室に置いて手に取れる環境を整えるようにする。 ☆学習用学習用タブレット端末端末を効果的に活用することで、互いの考えや感想を伝えたり、交流したりし、自分の考えを深められるようにする。
第5学年	○物語の設定や登場人物相互の関係をクラス全体で確認してから、心情の読み取りや自分の考えを形成させる時間を取ったことで、多くの児童に考えをもたせることができた。 ○ペアやグループで相談する時間を確保したことで、苦手意識をもっている児童も、授業に参加することができた。 ○学習用学習用タブレット端末端末を活用して、考えたことや感じたこと、学習の振り返りを共有し、児童相互の考えの交流を促すことができた。	○漢字テストに向けての勉強方法を自分なりに考えて取り組めるようになってきた。練習する時にもポイントを意識して書くことで、定着度が上がったことが、普段文章を書くときに既習漢字を使って書くという意識がまだ低く、ひらがなだらけの文章になってしまう児童がいる。 ○物語文の学習では、文に書かれている登場人物同士の関係を図に表して整理することができた。また、登場人物の気持ちに共感できる部分とそうでない部分について理由を添えて書く姿が見られた。 ○内容理解が進むと、自分の考えをしっかりとつことができた。登場人物の心情が分かる部分にサイドラインを引いたり、引いたところ同士をつなげて心情を考えたりすることで、なぜそのように考えたのか理由まで書けるようになってきた。 ○経験も少ないせいか、読書感想文や行事後の作文を書くことに苦手意識をもっている児童がいる。 ○学習の振り返りを行うことで、自分がどのように学習を進めてきたのか、何が分かったのかを振り返ることができるようになってきた。	○漢字50問テストについては、再テストを確実に行うことで定着を図る。識字が苦手な児童については読みのテストに変更したり、50問を一度に書くことが難しい児童については10問ずつ区切ってテストをしたりと、児童の実態に合わせて対応していく。 ○学習の始めに、教科書の「たいせつ」を活用して「単元で身に付ける力」と「どうしたら身に付けられるのか」を児童と確認する。常に振り返ることができるように、ワークシートにも載せ、手元に置いて学習できるようにする。 ○内容理解が進むように、サイドラインを引くポイントや、図に描いて情報を整理するなどの学習の手だてを提示していく。自分自身で、適切な学習方法を選択していけるようにする。 ○書く機会を増やす。書字に課題がある児童には書き方例をいくつか提示し、その中から選んで真似して書くことから始める。司書にもヒントをもらい、読書感想文の書き方を知らせる。 ○振り返りの視点を提示する。できたかできないかではなく、どのように学習を進めてきたのか、次回はどうしたら更によく読めるようになるのかなど、具体的に振り返り、次の学習につなげていけるようにする。また、今後は単元の振り返りも行い、自分がどのような力をその単元で身に付けたのか自分自身で認識し、学習の積み重ねを感じられるようにする。 ☆学習用学習用タブレット端末端末を活用して、お互いの考えを見合って交流できるようにしたり、学習のヒントにしたりできるようにする。
第6学年	○学習用学習用タブレット端末端末を活用して考えたことや感じたことを記録したり、交流したりしたことで、常に友達の意見を参照する環境を整えた。これにより考えを広げたり、参考にしたりする児童が増えた。これにより、これまで以上に様々な視点で読むことができるようになった。 ○文学的文章の読み取りの仕方を理解させ、読み取ったことを交流する時間を確保したことで、文学的文章の読み取りに苦手意識をもっている児童であっても、学習に参加し、思考することができた。 ○書いた文章を読み合ったり、アドバイスをしたりする時間をさらに充実させ、書く力を伸ばしていく必要がある。	○自分に合った学習方法を探して、漢字テストに向けての準備をすることができるようになってきた。10問テストは自分自身で丸付けをすることで、細かい部分にも着目できるようになり、正確に漢字を覚えられるようになってきた。 ○何のために学習しているのか、目的意識をもてず受動的な学びになってしまう。学習を通して何を学んだのか、どんな力が身に付いたのかを振り返り、児童が実感することで主体的に学べるようになってきた。 ○文学的文章の読み取りでは、既習事項を振り返ってから学習を始めた。様々な視点から登場人物の心情を読み取り、お互いに読み取ったことを重ね合わせることで、より心情を深く読み取ることができた。 ○説明的文章では、文章の構成を確認し、筆者が伝えたいことについて読み取ることができた。筆者の考えに対して自分自身はどう考えるか、意見をもつ部分にまだ課題があるので、自分自身の経験を通して考えを書けるようにしていく。	○漢字テストは、直しを確実に行うことで正確に漢字を覚えられるようにする。50問テストは、再テストを行うことで定着を図る。識字が苦手な児童については、学習用タブレット端末で漢字変換テストを行ったり、テストの問題数を減らしたりするなど、児童の実態に合わせて対応していく。 ○学習を通してどんな力を身に付けるのか、どうしたら身に付けられるのかを教科書の「たいせつ」のページで学習の始めに確認することで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。また、単元の最後にも目標について振り返ることで、自分自身の学びを認識できるようにする。 ○ペアやグループで自分の考えを伝え合う時間を多く取る。1時間の授業の中で、一度は全員が自分の考えを伝えられるようにする。 ○書いた文章を読み合い、アドバイスをする時間を設定し、相互推敲をして文章を書く力を高める。また、よく書けている児童の見本を提示し、書き方のポイントを示す。 ☆学習用タブレット端末を活用して考えたことや感じたことをより多くの児童が伝え合えるようにする。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【社会】授業改善推進プラン			
◎「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載 ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載			
	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	○年間を通して、繰り返し身に付けるべき用語等を指導したことで、苦手意識を低くし無理なく身に付けさせることができた。 ○図書資料や学習用タブレット端末を効果的に活用して、調べ学習を進めることができた。 ◎自分の考えを含め、書くことに苦手意識がある児童がいる。 ○全体に向けて発表する機会を多く設けたことで、発表へ自信をもっている児童が増えた。	○自分たちが住む町の様子について屋上から確認したり、実際に町を歩いたりしながら観察する活動を通して、知識の定着を図っている。 ○社会科見学に意欲的に取り組み、自分たちが暮らす三鷹市に興味をもち、その後の学習で調べたことや見学して学んだことを副読本を活用しながらノートにまとめることができた。 ○副読本を活用して調べ学習を行う際に、意欲的に調べ学習を行う児童が多くいる一方で、配布している資料をノートに貼るだけになってしまっていたり、資料からどんなことを読み取ればいいのか分からずに学習に取り組むことができなかったりする。 ○学習したことを基に、まとめや振り返りを書く指導をしている。学習内容を想起しながらまとめることができる児童がいる一方で、何を書いたらよいのか分からず、書くことに困難を感じている児童もいる。	◎社会的事象の見方・考え方に基づいた視点を提示し、学習内容の要点を自分自身で考えながら調べ学習に取り組んだり、実際に見学して見たことや聞いたことをまとめたりすることができるようにする。 ○体験を通して知識・技能の定着を図るために、外部人財をゲストティーチャーとしてお願いしたり、映像や実物を提示したりしながら学習を進めることができるようにする。 ○学習計画を立てる際に、自らで調べる内容を選択できるように設定し、見通しをもって調べる活動ができるようにする。 ☆調べる活動を行った後に学習問題に対してまとめたものを、全体に向けて発表する場を設けたり、共有する時間を設定したりすることで、深い学びになるように計画する。
第4学年	○全員が共通のゴールイメージをもち、活動が充実していた。活動方法を選べるようにすることで、一人ひとり自分に合った方法を選ぶことの学びにもつながった。 ○調べ学習時に調べ方やまとめ方等の模範を示したことで、主体的に活動できる姿が見られた。反面、それだけでは自分で活動を進められず、教員と一緒に進める児童もいた。 ○ノートに自分の考えを書き表すことができる児童が増えた。書き方や学習の流れが分かりやすく見通しがもてると、自分の考えをもちながら学習に取り組めている様子が見られた。	○出された学習課題に対しては、興味・関心をもって取り組む姿勢がある。 ○調べたことを新聞に表したり、ポスターを作成したりするのは好きだが、調べ方や情報を適切に選び、表現することには差がみられる。 ○調べ学習のときには、課題への理解が十分ではないため、調べる内容が課題からずれてしまう児童がいた。 ○学習したことに對して自分の意見をもつことができない児童がいた。学習を振り返ることについてもまだ十分ではない。	○学習課題やねらいを明確にし、課題の設定、解決、まとめの方法など、児童の関心や意欲に合わせて、取り組ませ方を選ばせる。 ◎ノートやワークシートに記録しやすいように、板書を工夫するとともに、ノートの書き方や自分の考えのまとめ方を定着させる。 ○学習したことや調べたことを文章や新聞、模造紙などにまとめる活動を行い、課題に合った方法で自分の考えを書いたり発表したりできるようにする。 ☆単元のつながりや学年の系統を意識して、学習内容の組み立てや導入・まとめの方法を工夫し、課題に取り組む意欲を高められるようにする。
第5学年	○学習課題の設定や解決の方法、まとめ方などを紹介・提示することで自分のノート作りができるようになった。 ◎学習用タブレット端末を使用し、まとめを交流したり、意見交換をしたり、考えを伝え合ったりして、知識や思考を深めることができた。 ○学習した用語を活用してまとめを書いたり、自分の考えを書いたりするためには、今後も経験を積み上げていく必要がある。	○社会で使用する用語になじみがないせいか、教科書や資料を読むことが難しい児童がいる。 ○我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状や社会的事象についての既習事項や理解力に差が見られる。 ○資料を読み取ることはできるが、そこから分かることやそれに対する自分の考えを書くことに苦手意識をもっている。 ○調べて分かったことを発表したり、友達と共有したりする時間を確保し、アウトプットの形態も選択できるようにしている。 ○学習したことや疑問に思ったことを学習用タブレット端末で調べる活動を取り入れた。分かったこととともに、自分の考えを書ける児童が増えてきている。	○教科書を読む活動を意識的に取り入れる。その際、クラス全体、グループ毎、自分で選択したレベル別のチーム等、いろいろな場面を用意する。 ○学習内容を一般化するために、他教科との関連や日常生活との結びつきを意識して伝えていく。 ○資料を見て分かったことや、それに対する自分の考えを友達と共有する場を設ける。（口頭で、学習用タブレット端末上で） ○求めている情報を見つけ出し、整理し、まとめ、伝える力を育成するために、学習用タブレット端末を使った調べ学習やまとめの作成を取り入れる。 ◎考えたことを発表する場を増やし、思考することに大きな価値を感じられるようにする。 ☆学習用タブレット端末を活用したグループ学習で、学び合い、教え合いと共に、知識を広げ、深めていく取り組みを行う。
第6学年	◎学習用タブレット端末を活用したことで、教科書を基本としながら、様々な資料に触れることができた。またそれにより、資料の特性を意識しながら、学習課題の解決に必要な情報を収集しようとする姿が増えた。 ○学習課題を明確にした上で、その解決のための方法やまとめ方を例示することで、様々な選択肢の中から、課題の解決のために適している方法を選ぶようとする姿が見られた。 ○考えの交流をさせる際には、今までもっていなかった多様な視点に気付かせ、考えを広げるための工夫をする必要がある。	○資料を基に気付いたことや考えたことをワークシートに書くことができる児童が多い。 ○学習したことを活用して、まとめを書いたり、自分の意見を書いたりすることに苦手意識がある児童がいる。 ○社会的事象への興味・関心はあるが、語彙の意味理解が難しいことによって、学習意欲が低下することがある。 ◎個人で思考をまとめる時間やグループや全体で意見を交流する時間を確保することで、表現することへのハードルが下がってきた。	◎我が国の政治の働きや我が国の歴史上の主な事象など、基礎的な知識を習得するために、学習課題を明確にし、教科書の絵や写真、グラフの読み取り、新聞や学習用タブレット端末からの情報収集などのいろいろな方法で解決させる。 ○調べたことや分かったことを基にプレゼンテーションを行うなど、考えを表現する場を設定する。 ○課題を解決するために適している方法を選択できるように、いくつかの選択肢を提示する。 ○ノートやまとめの書き方の例や評価規準を示して、参考にすることができるようにする。 ☆共有用アプリを活用したり、グループ内で話し合ったりする活動を取り入れる。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【生活】授業改善推進プラン

- ◎「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載
- ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○観察カードを書く際、目・耳・鼻・手などを使って気付いたことを書くことを意識させた。これにより、細かいところまで観察し、表現することができた。 ○昔遊びに興味をもち、教え合ったり、継続して練習に励んだりすることができた。	○アサガオの観察では、成長ごとに学習用タブレット端末を活用しながら、植物の様子を観察したりそのときの自分の気持ちや関わりを考えたりすることができた。 ○学校探検では、2年生に案内してもらい活動や自分たちだけでの探検を通して学校に興味をもち、教室の場所が分かったり学校で働く人に気付いたりすることができた。また、学校紹介をするために、クイズにしたり図鑑にしたりとまとめ方を自分で決めて学習を進めることができた。 ○自分の身の回りの自然や学校生活、友達や先生に愛着をもって活動することができた。 ○観察するときや記録していくときの表現力、語彙力については個人差がある。	◎アサガオの観察では、絵で描いたり学習用タブレット端末を活用したりと、自分が記録したい媒体で残せるようにする。自分が興味をもった部分を拡大したり、繰り返し観察したりすることで、特徴や成長過程での違いに細部まで気付くことができるようにする。 ○観察の仕方や書くことの視点は、国語の学習と横断的に行い、語彙力と表現力を養う。 ○観察や体験への関わり方を考えたり計画したりする時間を各単元で設定する。園ではどんなことをしてきたか、どんなことをしてみたいか、どんな遊びができそうか、次に何をするかなど、自己調整できるようにする。 ☆生活科を通して、季節の移り変わりや友達や先生、地域との関わりに気づき、活動の記録を残すことで自分の成長を実感できるようにする。
第2学年	○特徴を捉えやすいように観察する視点を明確に示し、意識して表現できるようになった。 ◎地域の町探検を通して実際の地域の方との関わりや交流を大切にした。その関わりから気付きの質を高めることができた。 ○一年間で自分が大きくなったことやできるようになったことを実感し自身自身の成長を振り返った。それにより、これまでの自分の成長や成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちをもつことができた。	○一人一鉢、ミニトマトを栽培した。しかし、植物や動物に対しての日常的な興味・関心については個人差が大きい。特に動物に関しては、抵抗感のある児童がいる。 ○観察カードをかく際に、視点（見た・聞いた・におった・さわった・思った・比べた・予想した）を提示しているが、あまり意識せずにかいている児童がいる。また、文章も短く、具体的に書けない児童がいる。 ○町探検活動では、4～6人ほどの少人数で行動したこと、それぞれのニーズに合った調査ができた。児童によっては、地域の方と交流しながら調査できた。活動を通して地域にはいろいろな公園やお店や場所があることを知ることができた。ただし、グループワークの中で、あまり役割を見いだせていない児童も数名いた。	○体験活動では、一人ひとりに課題意識をもてるようにしていく。特に、触ったり見たりすることに抵抗感がある児童がいるため、まずは学習用タブレット端末や図鑑等で調べる活動を通して、疑問をもてるようにする。その後、それらを調べていく活動と合わせて観察させたり育てていったりしていく。 ○観察などの調べる活動は、一人ひとりが納得のいく時間設定をする。じっくりと取り組む中で、気付きが多くなるようにしていく。また、その中で提示した視点が十分に定着していない児童を個別指導していく。視点は、一人ひとりが意識できるように掲示する。また、必ず書く内容を示し、その内容を全員チェックし、書かれていない場合は、教員と一緒に書き、書き方を学べるようにしていく。 ☆2学期以降も町探検の活動を通して、地域の方との交流を大切にしていく。交流前には、交流の仕方を示し、学年全員がマナーを守って、気持ちよく活動できるようにしていく。そして、活動を進めていく中で地域への愛着を深めることができるようにする。
第3学年			
第4学年			
第5学年			
第6学年			

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【算数】授業改善推進プラン

- ◎「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載
- ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○具体物や半具体物を使い、数の概念のイメージをもたせることができ、繰り上がりのある足し算引き算もできるようになってきた。 しかし、個人差が大きい。 ○家庭学習で既習事項を繰り返し練習する習慣を付けられた。授業中や宿題の様子を確認しながら個別指導をすることで、学習の定着を図ることができた。 ○全体の中で自分の考えをみんなに伝える機会を多く設け、学級全体の学習理解を深めることができた。	○具体物や半具体物を授業で用いることで抽象的な数の概念を具体的なイメージとして捉えることができているが個人差が大きい。 ○デジタルドリルを活用することで個人の進捗状況に合わせることができ、繰り返し取り組むことができる。一方で書く機会が減ると数字を正しい書き順や整った形で書くことができない児童が見られる。 ○具体物を動かしながら考えを伝える機会では、始め個で考え、ペアに伝え、全体の間でも考えを伝えられる機会を設けた。その中でブロックは動かせるものの、言葉をつけながら行うことは始め難しい児童がいたが、友達の伝え方を参考にしてパターンが分かると積極的に取り組める児童が見られた。	☆基礎基本の力が全児童に付くように、計算カードの宿題や学習用タブレット端末上のデジタルドリルなどを大いに活用し、計算に慣れさせる。 ☆学習用タブレット端末を活用し、一人ひとりが個人の進捗状況で取り組めるようにする。 ○具体物を使い、物と物を対応させて個数を比べたり、5や10のまとまりを意識して数えたりする活動を通して、数の大きさを捉えられるようにする。 ◎自分の考え方を伝える活動には、自分の考えをまとめる時間やペアやグループで考えたことを伝え合う機会を設けることで、自信をもって発表できるようにする。
第2学年	○計算ドリルやAIドリルを活用し、基礎的な学習内容を定着させることができた。 ○具体物や半具体物を使い、数の概念のイメージをしっかりともたせることができた。 ○計算練習は、家庭学習でも繰り返し取り組むことで習熟することができたが、個人差がある。 ○学期末、学年末に復習の時間を設け、学習内容の定着を図ることができた。 ○単元が変わってもプリント学習を継続して行うことで、学習内容の定着を図ることができた。	○繰り上がり、繰り下がりのない足し算や引き算が定着していない児童がいる。 ○繰り上がり、繰り下がりのある足し算や引き算は、学習してから期間をあけて再度取り組むと、計算できない児童がいる。 ○「長さ」の単元では、ものさしの使い方を苦手とする児童がいる。 ○具体物やI C T機器を活用することで、主体的に学習に参加できた児童が多くいる。既習事項の確認に時間がかかる児童には、具体物操作の時間が取れるようにする。 ○課題に対して、自力解決の時間を取った後に、グループワークで協働的な学習場面を設定した。どの児童も相談をしたり、自分の答えに自信をもてるように情報交換したりしていたが、コミュニケーションがうまく図れていなかった児童もいる。	○朝学習の時間を活用して、足し算、引き算や長さやかさの単位などの基礎的事項を学習する時間を帯で取る。繰り返すことで、定着させていく。 ○用具操作が必要な単元や図形単元では、操作の時間をしっかり確保していく。標準の時間数プラス2時間ほど取り、繰り返し学習に取り組めるようにする。また、日頃からのノート指導で、筆記用具の使い方について指導していく、用具操作を丁寧に行うようにしていく。 ◎間違えた問題はそのままにせず、直しを必ず行うことで、既習事項を定着させていく。 ◎学期末、学年末に復習の時間を授業内で設け、学習内容の定着を図る。 ☆2～3人といった少人数でのグループワークの時間を設定し、まずは、話し合ったり相談し合ったりするための方法を示しながら進めていく。3学期には、自分の目的に合わせて、交流しながら学習できるようにする。
第3学年	○理解が十分でない単元については、補充プリントやワークシートを活用し、繰り返し練習を行うとともに、継続的に家庭学習等で習熟を図っているが、個人差がある。 ○お互いに教え合ったり、考えを伝え合ったりする活動を取り入れることで、協働しながら学習を進めることができた。	○習熟度別の学習形態に慣れ始め、「問題把握→見通し→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」までの学習の流れを意識しながら取り組もうとする姿が見られるようになってきている。 ○指を使って計算をしたり、九九を唱えるのにつまずいたりする児童もおり、今後も一人ひとりの理解状況の把握をしながら、丁寧な支援を重ねながら指導を重ねていく必要がある。 ○「自力解決」の場面では、自分の考えをノートにかけずにいる児童がいるため、自立解決での十分な時間の確保や、ペアや集団解決の中で気付きを得られるような場面設定が必要である。 ○授業の導入において、抽象的な問題提示よりも具体物や実物などを活用した問題提示の方が、児童の理解や学習意欲の向上につながるが多い。	○基礎的な学習内容を十分理解するために、AIドリル、東京ベーシックドリル等活用し、学習の定着を図る。 ○既習内容を定着させるドリルやプリントを繰り返し行う。また、ドリルの丸付けを家庭で行うことで、間違えた問題にすぐに取り組めるようにする。 ○「ゆっくりコース」では、既習内容の習熟を図るために、簡単な練習問題に多く取り組み、「できた」「もっと問題に取り組みたい」と意欲的に活動が取り組めるように指導を工夫する。 ○「ばっちりコース」では、レディネステストの結果をもとに、既習内容の習熟を図るプリントや練習問題に取り組む。（基礎） ◎「どンドンコース」では、既習内容の定着を確認するだけでなく、発展的な問題に取り組むなど、多様な考え方や解き方を見付けられるようにする。（発展） ○問題を解決する際に困ったときには、既習内容を振り返ることができるようなノート作りを目指し、常に既習事項を意識するよう指導を行う。 ☆自力解決で考えを書いたノートや学習用タブレット端末の共有ツールを活用し、友達と考えを共有する時間の設定を継続する。最後の振り返りでは、問題を解決するための見通しが適切であったか、自分の考えの変化や問題解決の手応えを実感できるように視点を与える。
第4学年	○基礎的な学習内容を十分理解するために、東京ベーシックドリルを活用し、学習の定着を図った。AIドリルの活用へと移行していく。 ○「ゆっくりコース」では、基礎的な問題を全体指導、プリント学習、教科書指導等で繰り返し行うことで、知識・技能の定着が見られた。 ○「どンドンコース」では、一つ考え方を見付けた児童には、ほかの考え方があるか問いかけて、多様な考え方を見付けられるよう機会を設けられた。（発展） ○毎時間の振り返りができるノート指導を行うことができた。 ○学期末、学年末に復習の時間を設け、学習内容の定着を図った。 ○学習用タブレット端末やスクリーン等を活用して友達と考えを伝え合うことで学び合い、途中や最後の振り返りでよりよく問題解決できたことを実感できるようになってきている。	○かけ算九九が定着していない児童が数人いる。そのことがかけ算やわり算の筆算に影響を及ぼしている。 ○「角の大きさ」では、正確に角度を測ることが難しい児童もいた。 ○「小数のしくみ」では、10倍した数、100倍した数、10分の1した数、100分の1した数が混乱している児童がいた。 ○全体を通して、文章問題の問題文の意味を理解することが難しい児童もいた。 ○自分の考え方を説明することに対しては、どのコースの児童も苦手意識があるように見える。 ○授業後の振り返りについては、自分の言葉で学習したことや今後に生かしていくことを書ける児童もいるが、まだ感想になってしまう児童もいる。書き方についての指導を続けていく。 ○どの児童も自分の集中できるコースを選択して学習に参加している。	○授業の導入で、100マス計算や算数クイズなどを行い、基礎的事項の定着を図る。「ゆっくりコース」の場合は、25マス計算など、問題数の少ないところから始め、短時間で成果が見られるようにする。 ○「どンドンコース」「ばっちりコース」では、早く解くことを目的としてしまったり、答えが合っていればいいと思ってしまったりする児童も多い。答えを出したら終わりではなく、答えを出すまでの過程を大切にしていく。 ○自分の考えを確実にノートに書き残すよう指導し、ノートチェックを行う。 ○考え方を表す手段として、数直線や線分図、式、図や絵など様々な表し方があり、自分で選択して考えられるようにする。 ○「どンドンコース」では、問題の解き方を複数考えさせるなど、発想の幅を広げられるような機会をもつ。 また、個人、小グループ、クラス内での対話の場面を設けて、いろいろな考え方を共有できるようにする。 ☆学習用タブレット端末のドリルアプリを使って問題演習や、復習をする機会を多く設け、学習の定着を図る。 ○振り返りについても学習用タブレット端末とノートを状況に応じて使用していく。
第5学年	○基礎的な学習内容を十分理解するために、東京ベーシックドリルとAIドリルを活用し、学習の定着を図れた。（補充） ○「ゆっくりコース」では、具体物の提示や、個別指導を充実させることで、スムーズな導入と定着を図ることができた。 ○「どンドンコース」「ばっちりコース」では自分の考えをまとめて発表する機会を確保したことで、様々な解決方法について皆で検討したり、より良い方法を考えたりすることに繋がった。 ○単元終末において、既習の学習事項を活用した問題に取り組んだり、プログラミングソフトなどを活用したりして、自己の能力開発を行うことができた。（発展）	○習熟度別指導により、児童が自分の理解度や学習の進み方に合ったコースで学習に取り組むことができている。 ○「ゆっくりコース」では、少人数で具体物を操作したり、教員から個別の支援を受けたりとすることで、基礎的な内容への理解を深めている。 ○学習用タブレット端末やデジタル教材を活用した学習には意欲的に取り組み、図や式、動画などを通して問題の内容を捉えることができている。 ○自分の考えを発表する児童が一部に偏ることがあり、考えを言葉や図、式を用いて説明することに苦手意識をもつ児童も見られる。 ○問題解決の場面において、自分で考えをもつ前に友達の発言や全体での確認を待つ児童がいるため、自ら既習事項を活用して解決方法を考える力を育てる必要がある。	○東京ベーシックドリルやAIドリルなどを継続的に活用し、既習内容を振り返る時間を確保することで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○「ゆっくりコース」では、具体物や図、数直線などを用いて問題場면을視覚的に捉えられるようにするとともに、児童の理解状況に応じた個別の声掛けや指導を行う。 ○デジタル教科書を活用し、十分な理解を促す。 ◎「ばっちりコース」「どンドンコース」では、図や式、言葉を関連付けて自分の考えを表現する時間を設定する。また、考え方を説明し合う活動を通して、複数の解決方法を比較し、それぞれの良さに気付けるようにする。 ◎児童が「分かったこと」「大切だと思ったこと」「友達の考えから学んだこと」「次に生かしたいこと」などを記録できるよう、ノートや振り返りの書き方を具体的に示す。必要に応じて児童のノートを大型提示装置で共有する。 ☆授業に応じて、個人で考える時間を十分に確保した上で、ペアや小グループで考えを伝え合う活動を取り入れる。学習用タブレット端末やホワイトボード等を活用し、児童が自分の考えを表現できる場面を増やす。
第6学年	○基礎的な学習内容を十分理解するために、東京ベーシックドリルとAIドリルを活用し、学習の定着を図れた。 ○「ゆっくりコース」では、具体物を使用し、十分理解するまでゆっくりと繰り返し指導を行うことができた。プリントを活用し、問題を解決できる実感や達成感を重視しながら指導することができた。 ○「どンドンコース」では、多様な解決方法があることに気付き、友達の考え方の良さにも気付けるよう指導しているが、発言は特定の児童に限られている。	○「ゆっくりコース」・「ばっちりコース」・「どンドンコース」の選択で、ばっちり・ゆっくりコースを選択する児童の割合が多い。 ○「ゆっくりコース」では、毎時間学習ボランティアの方に入っていただき、個別に指導できる体制をとることができている。 ○「ばっちりコース」では、基礎的な内容を教科書の問題を活用して学習し、学んだことを活用して自分の力で練習問題に取り組めるような授業展開をしている。 ○「どンドンコース」では、表現力・記述力アップのため、線分図や図・文章を使って自分の考えを自分の言葉で説明する活動を大切にしている。	○基礎的な学習内容を十分理解するために、東京ベーシックドリルとAIドリルの活用を継続する。 ○「どンドンコース」では授業の進度を調整し、中学校へ向けた課題や、これまでの学習内容を複合的に活用する問題を出題する。 ☆学習用タブレット端末の共有ツールを用いて、問題の解き方を複数考えさせるなど、発想の幅を広げられるような機会をもつ。また、個人、小グループ、クラス内での対話の場面を設けて、様々な考え方を共有できるようにする。 ◎「どンドンコース」では、まずノートに自分の考えをまとめ、全体で説明する機会を意図的に設定していく。 ○多様な解決方法があることに気付き、友達の考え方の良さも確認し、今後の自分の学習に生かそうとする意識を高める。 ○授業の振り返りの際に疑問点や理解できなかった点を明らかにさせて、自分に必要な学習は何かを認識し、家庭学習で復習できるようにする。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【理科】授業改善推進プラン

- ◎ 「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載
- ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	○問題、予想、方法（実験）、結果、考察、まとめの流れを理解し、見通しをもって取り組める児童が増えた。 ○考察で手本となる児童の考えを共有することで、実験結果から根拠をもって考察を考えられる児童が増えた。一方で、結果と考察の違いを意識しながら書くことができる児童はまだ少ない。	○問題解決の流れは概ね理解しているが、実験結果を根拠として自分の考えをまとめたり、考察として表現したりすることに個人差が見られる。 ○予想をする際には、低学年で経験してきた内容や生活経験などを活用しながら、文章や図で考えを書いている。 ○自分で手順を考えたり、結果から分かることを言葉で表現したりすることに課題がある。 ○まとめを自力で書くことはまだ難しい児童がいる。 言葉や言い方のヒントを与えることで文章化できる。 ○実験方法や手順について、自ら考えたり改善したりする場面では支援を必要とする児童が見られる。	○実験結果を基に考察をまとめる力に個人差が見られ、結果と考察を関連付けて表現することが難しい児童がいる。結果と考察の違いを明確に指導するとともに、考察の型を活用した記述活動や話し合い活動を各単元で取り入れ、児童が根拠を基に自分の考えを表現できるようにする。 ○既習事項や生活経験を基に予想を立てることはできるが、予想の根拠を明確に説明したり、予想と結果を関連付けて考察したりする力に個人差が見られる。予想とその根拠を表現する活動を継続的に行うとともに、予想と結果を比較する場を設定し、児童が根拠を基に考察できるよう指導する。 ○☆実験方法を話し合いながら考える活動や結果を根拠として説明する活動を各単元で取り入れる指導を行う。 ○学習用タブレット端末を効果的に活用し、文例提示や児童同士の意見共有を行い、児童が結果を基に自分の言葉でまとめを記述できるよう指導する。
第4学年	○問題、予想、方法（実験）、結果、考察、まとめの流れを理解し、見通しをもって取り組める児童が増えた。 ○ポイントを示すことで、自分の言葉で考察を書けるようになった児童が増えた。反面、そのポイントをしっかりと理解させる必要がある児童も見られた。 ○理科の学習と生活との関連付けはまだ意識が低い。授業の考察の時間に生活と関連付ける例示を示す必要があった。 ○考察では友達のを考えを共有することで、実験結果から根拠をもって考察を考えられる児童が増えた。しかし既習事項や生活経験と結び付けて予想を立てることが難しい児童もいる。	○問題、予想、方法（実験）、結果、考察、まとめの流れで学習し、ノートにまとめることができた。 ○一人ひとりの生活経験に差があるため、学習問題に対して、経験と結び付けて予想を立てることの難しい児童がいる。 ○実験に対して意欲的に取り組む児童が多いが、結果から考察したことを自分の言葉で表現することが難しい児童がいる。 ○比較して考えたり、既習事項を生かして考えたりすることが苦手な児童がいる。	○問題、予想、方法（実験）、結果、考察、まとめの流れをそれぞれの単元で明確にする。また、実験を同様の流れで行うことで、常に児童が見通しをもって取り組めるようにする。 ○結果をまとめる際、キーワードを提示し、それを使ってまとめるようにする。生活経験と実験の結果を結び付けながら、自分の言葉で考察を書けるようにする。 ○実生活に結び付ける発問を毎時間行い、生活との関連付けを意識できるようにする。 ○学習用タブレット端末を効果的に活用し、実験の記録をしたり、まとめをしたりすることで、課題への理解が深まるようにする。 ☆結果からの考察をペアやグループで交流し、自分以外の考えに触れられるようにすることで、思考の視点を広げられるようにする。
第5学年	○映像などの教材をもとに、事象について考えることができるようになった。 ○実験では、安全のためのきまりを守って意欲的に取り組んでいる。 ○ICTの活用や実験形態の工夫によりグループごとの学び合いをすることができた。	○実験や体験活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ○実験道具の扱いに慣れていない児童がいる。 ○様々な自然事象を普段の生活と結び付けて考えることが難しい。 ○資料や情報を関連付けて考えることが難しい児童がいる。 ○結果から考察し、自分の考えをノートやワークシートにまとめようと前向きに取り組める児童が増えてきた。	○学習用タブレット端末を活用するなどして、課題により興味や関心、目的意識がもてるような提示の仕方を工夫する。 ○教科書や映像などの教材を活用し、様々な自然事象を普段の生活と結び付けて考えさせる。 ○予想や考察を書く際、普段の生活や既習事項と関連付けて考えさせる。 ○ノートの書き方見本を使って指導する。学習過程が分かるように書かせる。根拠となる理由や自分の考えを書く時間を確保する。また、自分でノートの書き方を工夫していけるように指導する。 ○実施可能な実験を通して、学びを深める機会を設ける。 ☆予想や考察では、自分の考えをもとに意見を交換する場を設定する。
第6学年	○学習のめあてを理解し、自主的に考え、自分の考えを文や図で表すことができるようになった。 ○学習問題に対して、日常の経験やこれまでの学習内容を踏まえて予想を立てようとする児童が増えた。 ○まとめや考察を書くことへの苦手さはまだ残っており、引き続き指導の工夫が必要である。	○予想は立てることができるものの、学習課題と日常生活とを結び付けて理由付けまですることは難しい。 ○結果から考えられる事柄を考察として表現できる児童はまだ少ない。 ○学習の終わりに学んだことを生かして考えたことを文章にまとめることが苦手な児童がいる。 ○他学年で既習した事項や、単元と単元の結び付き・類似性を考えて、学習に取り組むことができるようになってきた。	○単元の導入の時間に、なるべく日常生活との関わりについて考え、予想・学習計画を立てることで、自分自身の問題として取り組んでいけるよう考慮する。 ○新単元に入る際には系統性を確認し、既習事項を振り返る。特に実験用具の使用方法については必ず全員共通して写真や図で確認する。 ☆予想や考察では、自分の考えをもとに意見交換する場を設定する。 ○学習用タブレット端末を使用した記録写真や映像資料等を活用し、学習問題・予想と実験・観察結果とを結び付けて考察や振り返りを行う。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【音楽】授業改善推進プラン			
◎「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載 ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載			
	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○合奏では、打楽器を多く取り入れ、リズムに合わせて演奏することができた。 ○手遊びや体を動かしての活動を積極的に取り入れ、体全体で音楽を感じ取り、楽しめている。 ○鍵盤ハーモニカの学習では、友達同士で教え合う機会を多く設け、みんなで協力して技術を身に付けられるようにした。	○音楽に合わせて体全体を使って表現することに楽しさを感じている児童が多い。 ○歌唱について意欲的に取り組む姿が見られ、楽しく声を合わせて歌うことができている。 ○リズム遊びに楽しんで取り組んでおり、手拍子だけでなく、体全体で拍をとろうとする姿が見られた。 ○鍵盤ハーモニカの学習では、運指が難になっていたり、手の形が潰れたりしている児童がいる。また、吹き口を必要以上に咥えるなど、ホースの扱い方を繰り返し指導している。 ○苦手だから活動にすすんで参加しない児童や、大きな音が苦手な児童がいる。	◎☆学習形態を工夫し、ペア活動などを取り入れ関わり合いながら音楽を楽しめるように、身体表現やわらべうたなどを積極的に取り入れていく。 ☆毎時間鍵盤ハーモニカを使用する時間を確保し、準備や片付けなども含めて丁寧に学習をする。また、動画を活用し、運指を繰り返し確認できるようにする。 ○音楽をよく聴くことを大事にしながら、歌詞の意味や気持ちを考えて自分なりに表現する楽しさを感じさせる。 ○音楽会に向けて、みんなで心を合わせ自分たちで作り上げる合唱・合奏になるように、意欲を高めていく。
第2学年	○グループやペア学習を積極的に取り入れることで関わりながら楽しく学習し、それが音楽活動へ主体的に取り組む態度につながった。 ○鍵盤ハーモニカの技能定着には個人差がある。階名で曲を歌い、覚えることで次にどの音を弾いたらよいかは分かるようになってきた。 ○鑑賞では身体表現をしたり、曲に合わせて小物楽器を入れたりしながら曲の面白さや特徴をつかむことができた。 ○アンサンブル活動を行い、周囲の音やリズムを意識しながら合わせることができた。	○音楽に親しみ、体を動かしたり、手遊びを楽しんだりできる。一方で、度が過ぎて、騒いでしまう部分があり、大きな声で歌うことに夢中になり、どなるように歌ってしまう時があることが課題である。 ○音楽と一緒に手拍子や足拍子などでリズムをとりながら、楽しく表現することができる。 ○歌うことが好きで、新しい曲にも意欲的に取り組む姿が見られる。 ○鍵盤ハーモニカで簡単な曲を演奏できるようになってきた。技能の個人差があり技能の定着が課題である。 ○互いの表現に興味をもち、良さを感じたり、良さを伝えたりすることに課題がある。	○気持ちを開放して表現できる雰囲気づくりを心掛けつつ、守るべきルールを事前に指導する。 ○手遊び歌や体を動かす活動を積極的に取入れ、体全体で音楽を感じ取り楽しめるようにする。 ○鍵盤ハーモニカの指導を毎時間取入れ技能の定着を図るとともに、個別に支援する時間も確保する。 ○鍵盤ハーモニカだけではなく、簡単なリズムで演奏できる打楽器を取り入れ、より合奏を楽しめる工夫をする。 ◎ペアやグループ学習を取り入れお互いに高め合うことができるような授業形態の工夫を行う。 ☆一人ひとりの感性や創造性を発揮できるよう「音楽づくり」の活動を充実させる。
第3学年	○リコーダーの技能定着には個人差があるので個別指導の時間や友達同士で教え合う機会を設けた。また、随時テストを行い技能の把握に努めた。 ○グループやペア学習を積極的に取り入れることで関わりながら楽しく学習し、それが音楽活動へ主体的に取り組む態度につながった。 ○様々な楽器に親しむことで、音楽に対する興味・関心が高まった。 ○演奏した歌唱や合奏を動画で撮り振り返ることができた。	○わらべ歌やあそび歌に親しみ、友達と楽しみながら活動することができる。 ○ほぼクラス全員がリズム遊びに意欲的に取り組むことができる。 ○歌うことが好きで様々な種類の曲に意欲的に取り組むことができる。 ○大きな声を出そうとしてどなるように歌ってしまう時があることが課題である。 ○鑑賞では曲想の変化や曲のよさを感じ取りながら聴くことができるが、音楽の要素に結び付けて鑑賞することが課題である。 ○授業に集中できない時がある。	○毎時間リズムリレーやリズム遊びを取り入れ楽しんで活動できる導入の工夫をする。 ◎わらべ歌や手遊び歌をペアやグループ学習で行い友達と交流しながら音楽を楽しめるようにする。 ○毎時間リコーダーを指導し、ワークシートを用いながらスモールステップで技能の定着を図れるように工夫する。 ☆鑑賞では音楽的な要素と関連付けて聴くことができるように音楽の言語表現を拡大したりプリントで一人ひとりに配ったりして全員で共有する工夫を行う。 ☆「音楽づくり」の活動を行い、グループ分けにも配慮しながら、一人ひとりの感性や創造性を発揮できるようにする。 ○テンポ良い授業を行い児童の集中力が続くような工夫をする。
第4学年	○リコーダーの技能定着には個人差がある。 ○合奏では一人ひとりが楽器を選択し演奏に取り組むことでリコーダー以外の楽器にチャレンジし意欲的に取り組むことができた。 ○歌唱では喉だけで歌ってしまう児童がいるので無理のない発声で歌うことが課題である。 ○昨年度の取り組みから、系統的、段階的な指導を通すことで、主体的に取り組む態度につながっている。	○学習に対して前向きに楽しんで取り組む児童が多い。 ○歌唱では無理をして喉で歌ってしまう児童がいるので、無理のない響きのある声で歌うことが課題である。 ○遊び歌や手遊び歌を行い楽しみながらリズム感を身に付けることができている。 ○リコーダーの技能に個人差がある。タンギングや運指など基本的な練習が必要な児童もいる。	○表現することを楽しめる雰囲気づくりを心掛け、表現活動につなげていく。 ○高学年につながるような声の響かせ方を意識する声掛けを工夫する。 ◎☆学習形態の幅を広げ、ペアやグループ活動の機会を設ける。互いに見合う、聴き合う活動を積極的に取り入れ交流しながら高め合う活動の工夫をする。 ○技能の定着を図るために毎時間基礎的な練習を行う。 ○楽しみながら基礎的な技能を定着させるために、伴奏の工夫をし、選曲の工夫を行う。また、学習用タブレット端末に見本動画をアップし視覚的にも技能を学べるように工夫する。
第5学年	○学習規律が身に付いてきている。 ○常時活動を工夫することで、全員が無理なく自然に音楽の学習に入れるだけでなく、リズム学習の基礎の定着につながっている。 ○グループやペア学習を積極的に取り入れることで教え合い関わりながら楽しく学習し、それが音楽活動へ主体的に取り組む態度に結びついている。 ○伸び伸びと表現できる児童が多いが一方で自信がない児童もいる。みんなが安心して楽しみながら表現できるようにすることが課題である。 ○演奏した歌唱や合奏を動画で撮り振り返ることができた。	○意欲的に学習に取り組める児童が多く、楽しみながら伸び伸びと音楽活動をすることができる。 ○高学年になり響きのある歌声で歌えるようになってきた。 ○合奏では意欲的に取り組み、曲の良さを味わいながら演奏することができる。 ○様々なジャンルの音楽に意欲的に演奏したり鑑賞したりすることができる。 ○リコーダーではタンギングや運指に技能の差が見られる。 ○コツコツと練習に取り組むことができる児童が多い一方で集中して練習に取り組むことが難しい児童もいる。	☆系統的な「音楽づくり」に取り組むことで個々の表現を認め、今後の音楽表現活動につながるよう授業計画を立てる。 ◎互いに高め合える表現活動のために、友達関係に配慮した演奏形態の工夫、発表の場の設定など多様な活動を通してながら、様々な楽器に親しみ、演奏できるように指導する。 ○みんなで音楽を作り上げるという意識をもたせるために、互いに聴きあったり、タブレットで演奏を記録し振り返ったりするなどの活動を取り入れる。 ○毎時間、歌唱の発声練習やリコーダーの基本的な曲の練習を行い基礎的な技能の定着を図る。
第6学年	○学習規律がしっかり身に付いてきて、課題に取り組む姿勢が達成感を味わう学習につながっている。 ○学年合同の演奏を通して、一人ひとりが練習に取り組みみんな音楽を作り上げる感動や達成感を味わわせることができた。 ○表現の工夫のアイデアをもつ児童の意見を積極的に活用できるよう、共有の場を設定する。 ○演奏した歌唱や合奏を動画で撮り振り返ることができた。	○伸び伸びと明るい声で歌う児童が多い。 ○変声期に入った男子児童がいる。 ○クラス全体で声や音を合わせるということを意識することができる。 ○思春期に入り自分を表現することに恥ずかしがる児童もいる。 ○自分のパートに一生懸命になり過ぎてしまう時があるので、友達と音を合わせるということを意識するということが課題である。 ○音楽づくりでは音をイメージしてつくることができるが音楽の要素に結び付けることは難しい。 ○様々なジャンルの音楽に意欲的に取り組むことができる。	○一人ひとりの表現のよさを見逃さず、価値付けてフィードバックすることを意識して指導する。 ○変声期や思春期に入る児童も音楽の楽しさを感じながら伸び伸びと表現できるような雰囲気づくりを心掛ける。 ☆系統的に音楽づくりに取り組むことで個々の表現を認め、今後の音楽表現活動につながるよう授業計画を立てる。 ○技能的な課題は個別に指導する。 ◎友達の演奏を聴いて感想やアドバイスをする時は、お互いが高め合うことに繋がるように聴くポイントを伝える。 ○見本の動画をアップし個別に練習できるように工夫をする。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【図画工作】授業改善推進プラン

◎「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載

☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○道具や材料の使い方について分かりやすく説明したことで、基本的な使い方を身に付けることができた。 ○児童一人ひとりの表現を大切にすることで、様々な表現に取り組もうとする意欲がもてた。 ○友達同士で作品を鑑賞し合うことで、自分や友達の作品のよさに気付くことができた。	○ハサミやクレパス、油粘土などの基本的な道具の使い方をきちんと学び、多くの児童が正しく使うことができている。しかし、「のり」の適量が把握できていない児童がいる。 ○多くの児童は、自分が表したいことを考え表現することができている。その反面、技能が十分に身に付いておらず、発想したいことがうまくいかないと投げ出してしまう児童もいる。 ○表現することが分からない、もしくは皆と同じ課題でないイメージができず、課題に取り組むことが困難な児童もいる。	☆道具や材料の使い方を説明する際、板書や絵や写真を提示した上で、実演を交えて説明する。また、動画を活用し、繰り返し確認できるようにする。特に、「のり」の適量については、繰り返し実演で量を見せ、継続して指導していくようにする。 ○様々な題材で既習の道具や材料を使用することにより、基本的な技能を定着できるようにする。 ○児童の表現を大切に、豊かな発想や構想ができるように題材や材料などを工夫するようにする。 ○一人で取り組むことが難しい児童には、個別指導で興味・関心をもてそうな題材と一緒に探していくことによって、児童の見方や感じ方を広げられるようにする。 ◎鑑賞の時間を積極的に取り入れ、自分や友達の作品のよさに気付くことができるように感じたことを言葉にして伝える活動を繰り返し行う。その際、ペアやグループ、全体など、学習活動に適切な学習形態を選択する。
第2学年	○道具や材料の使い方について分かりやすく説明したことで、基本的な使い方を身に付けることができた。 ○児童のその子なりの表現を大切にすることで、様々な表現に取り組もうとする意欲がもてた。 ○時間の見通しをもつことや、準備や後片付けにはまだ時間を要する。今後も指導が必要である。	○基本的な用具である、クレパスやのり、ハサミの使い方や片付け方などに課題が見られる。 ○作品づくりに取り掛かる際は、楽しそうに取り組む反面、完成させる際に、これくらいでいいやと雑になる児童が見られる。 ○作品づくりをする際に、既存のものを思い浮かべて表現する児童が多く、複数のものを組み合わせたり、現実にはない想像を広げたりすることにあまり目が向かない様子である。 ○作品の振り返りにおいては、友達の作品の良さに気付き、興味をもって交流することができる。しかし、その良さを自分の作品作りに生かしている児童はあまりおらず、自分のもっている力のみで制作している様子である。	○用具操作をする際に、使い方のガイダンスを行い、使用方法を確認しながら作業を進めていく。 ☆制作課題に対して可能な用具や技法のガイダンスをし、それを受けて児童一人ひとりの興味・関心や課題に合わせて取り組み方を選べる単元を設定する。 ○単元の導入で、作品のゴールイメージや、そのゴールが様々なことを示す。そのために、数種類の作品を提示したり、条件を明確にしたりし、作品を作っていくときに、安心感をもって取り組めるようにする。 ◎創造的な活動では、活動の途中で互いの良さを見合ったり伝え合ったりする場を設定する。その中で、自分に生かせる部分はどこかを考える時間を設定することで、様々な視点で作品を見て、発想力が豊かになるようにする。
第3学年	○基礎的・基本的な技能の定着を図るような題材や教材を設定できた。 ○題材ごとに十分な活動時間を確保し、制作意欲を向上できるような題材提案を行うことができた。 ○制作に夢中になり、道具の使い方が荒くなる児童がいるので、道具を大切に扱うよう継続して指導していく。 ○感じたことを自分の言葉で表現し、友達と互いに認め合ったり、交流したりすることができた。	○基礎的な技能については定着が見られる。新しい技能については定着しつつあるが、十分ではないので繰り返し活用できるような題材を取り入れ、定着させる。 ○児童によって制作にかかる時間に差があるため、時間のかかりすぎる児童に声掛けをし、見通しをもたせるようにする。 ○まだ巧緻性が不十分な児童や早く先に進みたい児童が道具を荒く使う場面が見られるので個別に指導していく必要がある。 ○感じたことを自分の言葉で表現することに慣れつつあるが、語彙の広がりをもたせられたり、自分の視点をもたせられたりするようにしていく。	☆新しく使用する道具や材料の使い方を伝える際、板書や絵、写真を提示した上で、実演を交えて説明する。 ○予めその題材にかかる時間や流れを伝え、その中で制作できるように見通しをもたせるようにする。 ○道具の使い方が荒い児童については、なぜそのような使い方になるのか教師がつかむことから始め、その児童、その活動にあった道具なのか、どこに課題があるのかを見極めた上で、必要に応じて個別指導で定着を図ったり、別の道具も選べることを伝えたりする。 ◎鑑賞の時間を積極的に取り入れ、児童が自分の言葉で作品について表現できるようにしていく。
第4学年	○既習事項の内容については、基本的な技能が定着しつつあるが、新しいものには、定着にばらつきがある。また、技能や創造力に差が出てきた。 ○作品の制作を見通しをもって活動できるようになりつつあるが、そうではない児童もいる。 ○より良い作品を目指してつくることができる児童が多く、じっくりと作品に向き合うことができた。 ○自分の作品について、工夫や考えを文章で表現したり、友達と交流したりすることで、作品に対する感性を高めることができた。	○新しい道具や材料に興味をもち、意欲的に取り組もうとしているが、道具や材料の使い方がきちんとできていない児童が見られる。継続的な指導が必要である。 ○児童によって制作にかかる時間に差があるため、時間のかかりすぎる児童に声掛けをし、見通しをもたせるようにする。 ○技能や表現力に差があり、それぞれの発達段階にあった指導・支援が必要である。 ○作品の振り返りを行うことで、自分が工夫したことや考えを表現し、友達と交流することで作品に対する感性を高めることができている。	☆道具や材料の使い方を伝えるとき、掲示物を活用したり、実演を交えたりすることで、身に付けるべき基本技能を定着させる。 ○予めその題材にかかる時間や流れを伝え、その中で制作できるように見通しをもたせるようにする。 ○道具の使い方が荒い児童については、なぜそのような使い方になるのか教師がつかむことから始め、その児童、その活動にあった道具なのか、どこに課題があるのかを見極めた上で、必要に応じて個別指導で定着を図ったり、別の道具も選べることを伝えたりする。 ○自分自身で活動が進められない児童には声掛けするようにし、繰り返し指導にあたる。 ◎自分が感じたことや思ったことを友達と伝え合い、互いの思いを認め合えるようにする。
第5学年	○ノコギリなどの道具を安全を意識して使うなどの基本的な使い方は定着してきている。 ○ほとんどの児童が、自分で想像を広げて描いたり、つくったりできるが、中には想像することが苦手な児童がいるので、支援が必要である。 ○「話を聞く」、「学習に取り組む」といった基本的な学習の姿勢をつくることができつつある。	○個別対応や見通しをもたせる声掛けを行っているが、題材全体の見通しがもてない中、制作に集中できない児童もいる。 ○題材の趣旨を理解し、積極的に自分の表現を探そうとする児童がいる一方で、なかなか想像を広げることができない児童がいるので、支援が必要である。 ○概ね話を聞けて、制作に集中している児童が多いが、なかには導入のときに話を聞けなかったり、制作に集中できなかったりする児童が見られるので指導の工夫が必要である。	○視覚効果を活用しながらできる限り厳選した全体指導を行い、一斉指導時間が少なくなるようにする。 ☆様々な題材で既習の道具や材料を活用したり、掲示物を活用したりして基本的な技能を定着できるようにしていく。 ○資料や学習用タブレット端末を活用して児童の意欲を高めていく。 ○当日の流れや時刻を表示して授業や単元全体の見通しをもてるようにしておく。視覚で授業の流れがつかめるような板書や室内環境を整えていく。 ◎鑑賞の時間を設け、互いの作品のよさや表現の特徴などを見付けられるようにする。
第6学年	○前学年までに既習している基本的な技能をいかして作品に取り組んでいる。一方、既習した道具の使い方を忘れている児童がいる。 ○自分で表現したいことを考えて表現している児童が多いが、中には何を表したらいいか迷う児童もいる。 ○「話を聞く」、「片付けをする」といった活動の切り替えが素早くできつつあるが、中にはいつまでも制作をやめられない児童がいる。 ○自分の作品について文章で表現できる児童が増えてきているが、まだまだ表現の幅が狭い児童がいる。	○意欲的に活動できる児童が多い反面、手近な材料や技法に着手するのにとどまり、これまでの既習事項を生かしながら制作していくという姿勢はまだ十分ではない。 ○題材の趣旨を理解し、積極的に自分の表現を探そうとする児童が多い一方で、なかなか想像を広げることができない児童がいるので支援が必要な場合がある。 ○簡単に自分の作品について説明したり、友達の作品について感想を書いたりできるが、工夫の意図やそう感じた理由を書くことがまだまだ苦手とする児童がいる。	☆最高学年として、これまでの既習事項を生かして材料や技法を選択、活用できる学習環境を一年を通して維持していく。 ○資料や学習用タブレット端末を活用し、児童の意欲を高めていく。 ○まず活動したくなるような声掛けや題材設定に注力し、迷う児童が課題に取り組めるような空間作りを一年を通して維持していく。 ◎鑑賞の時間を設け、多様な表現を認め合い、それぞれの良さを感じ取ったり考えたりできるようにしていく。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【家庭】授業改善推進プラン

- ◎ 「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載
- ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年			
第4学年			
第5学年	○掲示物や実物投影機の積極的な活用により、児童の理解を深めることができた。 ○児童の力量を踏まえた教材選択をすることで、効果的な学習が可能になった。 ○外部人財を積極的に活用することで、学習内容をしっかりと理解させるだけでなく、技能面での定着を図ることができた。また、一人ひとりが安心して活動に取り組む環境づくりができた。 ○学習成果を日常生活に使える作品という形で表現することで、実践的な学習を行うことができた。	○調理や裁縫、生活に関わる学習に関心をもち、実習や製作活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ○基本的な用具の扱い方や作業の進め方については、これまでの経験による個人差が大きく、繰り返し確認や支援を必要とする児童が見られる。 ○家庭で調理や掃除、整理整頓などに関わる経験には差があり、学習したことを家庭生活の中で実践する機会にも違いが見られる。 ○自分の生活を振り返って課題を見付けたり、よりよい生活に向けた工夫を考えたりすることに難しさを感じる児童がいる。 ○家庭の仕事を家族の誰かが行うものとして捉え、自分も家族の一員として役割を担うという意識が十分に育っていない児童が見られる。 ○実習や製作活動では、手順に沿って作業することはできても、状況に応じて方法を考えたり、自分で判断して行動したりすることに課題がある。	☆学習した内容を家庭でも実践できるよう活動を設定する。取組の様子や成果を共有し、家族の一員として生活に関わる意識を高める。 ◎教師が一つ一つ指示するだけでなく、作業の手順や安全面を確認した上で、自分で次の活動を考えたり、必要な用具を準備したりする場面を設ける。 ○掲示物や実物投影機、動画資料などを活用し、用具の使い方や作業の手順を視覚的に示すことで、児童が見通しをもって活動できるようにする。 ○難易度の異なる材料や作業方法を準備し、一人ひとりの技能や経験に応じて選択できるようにすることで、無理なく技能を身に付けられるようにする。 ○学習ボランティアや外部人財をお願いして、安全面に配慮しながら個別の支援を充実させ、児童が安心して実習や製作活動に取り組めるようにする。 ○学習カードや振り返りを活用し、できるようになったことや工夫したこと、今後の生活で生かしたいことを明確にする。
第6学年	○教材の選択に幅をもたせることにより、個の技能にあった材料や方法を取り入れ、作品製作に取り組めた。 ○学習ボランティアの協力によって個に応じた対応をとることができ、作業の進捗状況がよかった。 ○体験的授業を多く取り入れたことにより、関心・意欲が高まった。 ○学習したことを家庭学習等で取り入れ、課題として取り組ませた。課題に対して取り組むことができた。一方、その後の家庭での取り組みへ継続的につなげることには課題が見られた。	○家庭科の学習に対して、高い意欲をもって取り組んでいる。 ○基本的な道具や用具の使い方に関する技能の定着が不十分な児童がいる。 ○学習したことを生かしてより良いものにするために工夫をしようとする意欲がある。 ○実生活に生かそうと考える児童が少ない。 ○学習したことを家庭生活と結び付け、実践しようとする意識に課題が見られる。	☆日常生活の中から課題を見付け、解決に向けて自らの考えを表現できるよう促していく。 ☆家族の一員としての意識を高め、日常的に取り組めるように家庭との連携を図る。 ○掲示物やICT機器の活用を積極的に行い、学習内容をイメージしやすくし、自信をもって取り組めるようにする。 ◎製作の学習では、使用目的を最初に決め、その目的に合わせたサイズや素材、デザインを自分自身で考えて取り組めるようにする。 ◎授業で学習した技能を積極的に家庭でも実践するよう促す。長期休業中には、衣食住に関わる家庭の仕事について、いつ・何を・どんな方法で行うかを自ら考えて取り組めるようにする。特に食に関しては給食献立を考案することにより、地元産の食材への関心や家族への感謝の気持ちを高められるよう工夫する。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【体育】授業改善推進プラン			
◎ 「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載 ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載			
	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○体づくりの運動遊びでは、継続的に縄跳びに取り組んだことで、伸び伸びとした動作で運動できるようにして基本的な体の動きが身に付いてきた。 ○最初のルールはこちらが提示するが、その後、児童から出てきたルールを加えていくことで、工夫しながら楽しく運動することができた。 ○友達のまねをすることで、体の動かし方を学ぶことができた。遊び経験が少ない児童も多く、怪我につながることもあった。簡単な動きから丁寧に学習を始められるようにしていく。	○運動に意欲的に取り組む児童が多い。 ○順番やきまりを守り、運動ができる。 ○固定施設を使った運動遊びでは、鉄棒や雲梯などで個人差が見られるが、どの児童も意欲的に取り組む姿が見られた。 ○走の運動遊びでは、まっすぐ走ることに課題が残る児童が数名いる。 ○友達の良い動きを見付けることができているが、どの動きが良い動きなのかを、精選して教える必要がある。 ○表現リズム遊びでは、手本のまねをして動くことができています。リズムをとりながら、体を動かす楽しさを感じられるようにする。	○体づくりの運動遊びでは、新聞紙やテープ、ボール、なわ、運動棒、フープなど操作しやすい用具を用いて、伸び伸びとした動作で運動できるようにして、低学年のうちに様々な運動を経験させる。 ○友達の動きをまねしたり、模範試技を見せたりして、体の動かし方が分かるようにする。 ○固定施設を使った運動遊びでは、ゲームを取り入れるなどして、楽しみながら運動を経験できるようにする。 ○走の運動遊びでは、折り返しリレーや低い障害物を用いたリレー遊び、いろいろな形状の線上を真っ直ぐに走ったり、蛇行して走ったりする活動などを取り入れ、基本的な動きを身に付ける。 ○リズムや音に合わせて体を動かしたり、みんなで動きを揃えたりする活動を通して、表現リズム遊びの楽しさを感じさせる。 ◎☆活動毎に、新たに見付けたことや考えたことを伝え合う活動を取り入れ、全体で良い動きを共通理解できるようにする。
第2学年	○運動遊びの内容を、場の設定や練習の仕方などで自らの力に応じて工夫したり選択したりすることにより、多くの児童が体を動かすことが楽しいと感じるようになってきた。 ◎学習カードを使い、スモールステップのめあてを設定し、振り返りをしっかりと行うことで、達成感をもち、目標に対する意欲を継続することができた。 ○持久力を高めるような運動遊び（縄跳び・折り返しリレー）を積極的に取り入れたことで、持久力が高まった。	○体を動かすことに意欲的な児童が多い。しかし、運動にあまり興味をもっていない児童もいるのが課題である。 ○ゲーム性のある活動を楽しんで行う児童が多くなる反面、用具の扱い方やルールを守らずに活動してしまう児童もしばしば見られることが課題である。 ○走の運動遊びや鬼遊びでは、体の方向を変えながら走ることや、周りにいる友達を意識しながら活動することに課題がある児童がいる。 ○友達のよい動きを見付け、自分に生かせる児童がいる反面、見付けることはできるが自分には生かせない児童や友達のように気付いていない児童がいることが課題である。 ○集合、整列などの集団行動がしっかりと取れない児童がいる。	○活動内容を実態に合わせ、児童の興味・関心の高い内容にしていく。児童にとって必要感のある活動内容にしていく。 ○活動の前に、活動のめあてを明確にすることはもちろんのこと、ルールや用具操作の決まりについて共通理解を図る。全体指導時に、モデリングをして、視覚的にも分かりやすくする。 ○準備運動の際に、簡単なステップワークを入れたり、走の運動遊びで、様々な方向に走る活動を入れたり、鬼遊びでは、小グループで活動する時間を設定して目の前の相手以外の存在も意識しやすくしたりしていく。 ◎☆各単元ごとに、よい動きをしている児童を紹介する時間を取り、その中でどの部分がいいのかを、言語化させる。また、そこで分かったことを振り返りシートに記入していくように指導することで、友達のよさに気づき、自分に生かしていけるようにしていく。 ○毎学期のはじめに、集合、整列などの集団行動を確認する時間を設定する。
第3学年	○互いの運動の様子を観察し合い、良い点や運動のポイントを言語化することで、表現力を高めることができた。 ○チームごとにリーダーを作り、互いにアドバイスしながら運動することができた。 ○学習カードを学年で確認しながら進め、どこに注意して運動に取り組むか、めあての焦点化を行うことで、児童も個々の課題に合わせた練習方法を選択することになった。 ○休み時間には、体育で学習した内容の運動に、すすんで取り組もうとする児童が増えた。	○体を動かすことが好きな児童が多く、運動への意欲は高い。用具を使った活動や様々な動きはこれから経験をさらに重ねていく必要がある児童もいる。動き方のイメージが十分にもてない様子も見られるため、様々な動きを取り入れながら活動に取り組む必要がある。 ○チーム活動に慣れてきており、リーダーを中心とした練習活動も自然に行えるようになってきた。一方で、動きのポイントを伝え合ったり、技能面での声掛けをしたりといった“教え合い”や“学び合い”の場面にはまだ不慣れな様子も見られる。 ○学習の初めに行う「マイゴール」の設定や「めあて」の立て方、活動後の振り返りの書き方について、継続的に支援が必要な児童がおり、自分の動きや課題に目を向けられるようにする必要がある。	◎動きのポイントを提示するだけでなく、学習用タブレット端末で自分たちの動きを撮影し、互いに共有し合うことで、自分の体の使い方を客観的に捉える手助けとしていく。 ☆運動を行う際に、よりよい動きや活動につなげる声掛けや伝え合いが自然に生まれるよう、課題に応じてグループを編成したり、やり取りのしやすい時間や場の設定を工夫したりしていく。 ◎各自で設定した「マイゴール」や「めあて」に対して、振り返る時間を確保する。学習用タブレット端末による撮影や、友達からのアドバイスを基に、自分の動きに目を向け、確認をしながら次の課題につなげられるようにする。学年で授業の流れをおおむね統一し、「めあての立て方」や「振り返りの書き方」についても丁寧に指導を継続していく。
第4学年	○一人ひとりの技能に合った活動を設定することで、個々が主体的に取り組むようになり、技能向上にもつながった。 ○学習用タブレット端末を活用することで、自分の動きを見て、修正する児童もいた。反面、学習用タブレット端末の操作に慣れておらず、操作に時間を取られ、運動量が減ってしまう姿も見られた。学習用タブレット端末の操作をしっかりと定着させる必要がある。 ○作戦や振り返り、練習などの例示をすることで、何をするのかの分かりやすくなった。反面、それらを理解することができず、どんな活動をすればいいのか分からずに取り組んでいる児童がいたため、全体でしっかりと共通理解を図る必要があった。	○ボールを扱うことに慣れている児童と慣れていない児童の差がある。投げる・捕るといった基本的な動作が苦手な児童が見られる。器械運動系についても、体の動かし方が分からない児童がいる。 ○互いの動きを見合い、アドバイスし合う活動では、動きのポイントが分かると、的確にアドバイスを行うことができている。 ○活動中に考えたことや自分の課題について、振り返りを具体的に書くことの苦手な児童が多く見られる。 ○リレーやゲーム領域など、チームで仲良く活動することはできるが、作戦や練習の内容を相談したり、振り返りをしたりすることに課題がある。	☆正しい動き方を学習用タブレット端末を用いて動画で学習することや、実際によい動きをしている児童を見てからやってみることで、イメージと動作の仕方をリンクさせて体で覚えていけるようにする。 ○器械運動や走・跳の運動では、動きのポイントを全体で確認する。体の使い方を確かめられるよう、学習用タブレット端末を活用して動画でポイントとなる動きを確かめたり、自分の動作の確認ができたりするように環境を整えていく。 ◎オクリンクやワークシートなどを活用し、活動に対する振り返りの仕方を工夫する。めあてを明確にし、その時間に考えたことや工夫したこと、自分の次に向けての課題など、振り返る内容を具体的に提示する。 ○作戦（攻め方）の例、練習の仕方、振り返る内容などを学級全体で共有する。チームの実態に応じて、必要なものを選んで取り組めるようにする。
第5学年	○学習用タブレット端末や学習カードを活用することで児童の気付きや運動のコツの言語化を促進させることができた。 ○画一的な運動課題を明示するのではなく、個々の課題にあった運動課題を用意し、スモールステップで、個々がめあてをもって取り組めるように、資料や掲示を工夫することができた。 ○ペア学習やグループ学習などを行い、認め合い、励まし合いながら学べるようになった。 ○運動の経験をさせるとともに、その運動の特性に合った楽しさを味わわせることで、様々な運動に親しめる児童が増えた。	○学習カードや学習用タブレット端末を活用し、運動のポイントや自分の動きについて振り返る活動に取り組んでいるが、気付いたことを具体的な言葉で表現することに難しさのある児童が見られる。 ○友達の動きを見て、良い点や改善につながるポイントを伝えたり、互いに助言したりする力には個人差がある。 ○器械運動や用具を使った運動については、これまでの経験の違いから、技能や運動に対する自信に大きな差が見られる。 ○種目によって、動き方やルールへの理解度が異なり、取り組む姿勢や習得の程度にも差がある。 ○振り返りの際に、活動の感想を書くことはできても、めあてに対する成果や次の課題を明確にして書くことが難しい児童がいる。 ○リレーやボール運動などの集団で取り組む活動では、チームの課題を共有したり、作戦や練習方法を話し合ったりすることに課題が見られる。	○活動前に自分のめあてや課題を確認し、どのような動きを意識するかを考える時間を設定する。活動後には、取り組んだことと結果を振り返らせ、運動のコツを言葉にする経験を積み重ねる。 ○新しい運動を取り入れる際には、安全な動き方や用具の扱い方を具体的に示す。また、既習の運動との共通点を確認し、児童が見通しをもって安心して活動できるようにする。 ○一人ひとりの技能や運動経験に応じて、難易度の異なる練習の場や段階的な課題を準備し、自分に合った課題を選んで取り組めるようにする。 ◎学習カードや学習用タブレット端末を活用し、めあて、活動の様子、できるようになったことを記録する。単元を通して自分の技能や考え方の変化を捉えられるようにする。 ◎教師や児童の動きの動画、動きのポイントを示した資料などを活用し、良い動きのイメージを共有することで、自己の課題を見付けやすくする。 ☆ペアやグループで互いの動きを見合い、良かった点や改善点を伝え合う活動を設定する。その際、助言する観点や伝え方を具体的に示し、児童が交流に参加できるようにする。
第6学年	○スモールステップを意識した技術指導を展開することで、新しい運動に対する不安感を減少させながら指導することができた。 ○運動の内容によっては児童がルールを考え、適切なものにしていくという意識が見られた。運動の面白さについて理解が深まった。 ◎振り返りでは「次の時間に取り組みたいこと」という視点で考えさせたが、自身の運動に対する目標設定と結び付かない児童もおり、さらなる工夫が必要である。	○意欲的に運動に取り組む児童が多い。 ○跳び箱運動やマット運動などの器具を使った運動経験に個人差があり、技能差も大きい。 ○水泳に関しては全体的に泳力が低く、技能差も大きい。粘り強く活動に取り組む児童が多い。 ○初めて取り組む活動に対して、不安を感じやすい。	◎学習用タブレット端末を活用して、ペアやグループで学習する場を設定し、互いにアドバイスし合いながら活動できるようにする。 ○水泳では、水泳がんばりカードを用いながら自分の課題に合った練習に取り組み、めあてをもって泳法練習ができるようにする。 ☆初めて取り組む活動の際に、スモールステップを意識して技術指導をしたり、これまでに行ったことのある運動との共通点を挙げたりすることで、不安感を減少させながら取り組めるようにする。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【外国語】授業改善推進プラン

- ◎ 「三鷹『学び』のスタンダード」の活用について記載
- ☆ 三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラムの活用について記載

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○歌を帯活動として毎時間取り入れたことやALTとの活動で、毎時間の外国語活動の時間を楽しみにするようになった。 ○活動の中で、楽しみながらインプットを意識して取り入れることで、耳から英語の言い方に自然に慣れることができてきた。 ○歌やゲームを工夫したり、英語の絵本を積極的に活用したりすることで、イメージを豊かにしながら、英語に親しめた。 ○ペアやグループでのやり取りを取り入れることで、相手意識をもち、楽しくコミュニケーションができるようになった。	○初めて行う英語活動への興味・関心が高いが、知らない言語に対して、苦手意識から入ってしまう児童もいる。 ○英語についての経験には個人差がある。 ○歌やゲームなどの活動で、楽しむ様子が見られる。	○歌やゲームを毎時間取入れ、楽しく英語に触れ、英語に親しむことができるようにする。 ○ALTのネイティブの発音を聞かせたり、それを真似て繰り返し発音したりすることで英語の発音に慣れさせる。 ◎☆ゲームの活動などを通してペアやグループでのやり取りを取り入れることで、相手意識をもち、楽しくコミュニケーションが取れるようにしていく。 ◎授業の最後に振り返りをし、友達の感想を聞き、次時への期待を高める。
第2学年	○ペアでのやり取りを積極的に取り入れることで、会話を楽しむことができた。 ○ビンゴゲームや友達とやりとりをするゲームを多用することで、クラスのみんなと学習した言葉を使って話すことができた。 ○インプットを意識した活動を取り入れることで、英語の言い方に自然に慣れ親しむことができた。 ○英語でのやり取りでは、個人差があるので、支援の個別化が必要である。	○アルファベットを見て、発話できる児童が多くいる。同様に、色や数字などの基本的な英語の発話も個人差があるのが、発話できる児童が多くいる。 ○活動に歌やゲームを取り入れることで、主体的に取り組む児童が多いが、恥じらいがあり、友達とコミュニケーションを取ることに苦手な児童もいる。 ○ALTの発話に合わせて、発声する児童が多くいる。しかし、同じことの繰り返しを粘り強く取り組めない児童もいる。 ○外国語活動自体に抵抗感がある児童もいる。	◎☆毎時間、ペアやグループでの活動の時間を設定していく。また、ゲーム活動の中では、より必然性のある場面を設定し、目的意識をもって活動が活発になるようにしていく。 ○ALTとの発話練習の際に、簡単なゲームを入れながら実施していく。同じことを繰り返しながらも、楽しんで取り組めるようにしていく。 ○抵抗がある児童は個別対応するとともに、インプットを意識して取り入れることで、耳から英語の言い方に慣れることができるようにする。
第3学年	○ペアやグループでのやり取り、ALTの先生との交流を積極的に取り入れることで、会話を楽しむことができた。 ○ゲームや歌を繰り返し取り入れることで、楽しみながら英語の音に慣れ親しむことができた。 ○ALTや友達とのやり取りを多く取り入れることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができた。	○歌やゲームを取り入れることで、楽しんで活動に取り組む様子が見られる。 ○英語で挨拶をしたり、自分の気持ちを伝えたりする活動を楽しみながら積極的に行うことができる。一方で、既習表現を用いて自ら質問したり、相手に応じて表現を選んだりする力には個人差が見られる。 ○あいさつ、気分、色、数、動物、食物などの英語の言い方を知り、活動の中で意欲的に使おうとする様子が見られる。 ○簡単な質問をし合いながら、ALTや友達とやり取りをしようとし、ジェスチャーなども交えながら取り組んでいる。また、いろいろな友達と声を掛け合いながら英語に親しむ様子が見られる。	○ペア活動やグループ活動を充実させ、既習表現を繰り返し活用できる場面を多く設定する。 ○やり取りのモデルを示したり、キーワードカードや絵カードを活用したりして、自信をもって英語で表現できるよう支援する。 ◎友達同士で質問し合う活動を取り入れ、相手の話を聞いて応答する経験を積み重ねることで、主体的なコミュニケーション能力の向上を図る。 ○活動の目的を明確にし、英語を使う必然性のある場面を設定することで、より積極的な発話につなげる。 ☆児童の生活経験や三鷹市の特徴と関連付けて指導を計画する。例えばジブリ美術館などを効果的に活用し、児童の興味・関心を引き出し、伝えたいことを大切にすることで主体的な学びにつなげる。
第4学年	○ペアやグループでのやりとりや会話を毎時間取入れ、インプットを意識したことで、楽しみながら正確な発音を身に付けることができた。 ○メインの活動はゲーム形式にすることを意識した成果もあり、児童はリズムに乗って学習に取り組めた。じゃんけんを多く取り入れて活動に勝負性を組み込んだことで児童が飽きることなく活動に取り組めた。 ○日常生活に密着した遊びや趣味、好きな曜日についての説明などの場面を想定した題材を取り入れた。そうしたことで、英語に親しんだり、必然性をもって学習に取り組んだりできた。	○ALTの先生と交流する中で英語で伝えようとする意欲を高めることができた。 ○集中配置では、自己紹介や英語の歌、カードゲームを交え、楽しみながらALTと円滑にコミュニケーションをとることができた。 ○英語の発音練習では「ジョリーフォニックス」を取り入れたことで、正しい発音を練習できた。 ○名前をローマ字で書くことができた。しかし、4つの線を意識してローマ字を書くことは難しい子もいる。 ○学習に目的意識をもたせることが必要である。 ○ペアやグループでコミュニケーションをとる際、相手が固定化しやすい傾向がある。	○児童の実態や学習の理解度に合わせて活動を行い、「できたこと」ではなく「やったこと」「やろうとしたこと」といった姿勢や成長を評価する。 ○英語活動に抵抗のある児童に支援するために、導入場面で前時・前単元の復習の徹底や、状況設定→アクティビティのように帯活動を増やしていく。 ☆「デジタル教科書」を活用し、本時の学習内容に関連した下学年の教科書該当ページを振り返るなどして、系統性や連続性を児童に理解させる工夫をする。 ○授業内にてアルファベットを書く習慣を付けることで、高学年に向けて苦手意識をもたないように働きかける。 ○コミュニケーションを取る相手が変わるように、クラスの全員の名前を書いたビンゴを用意し、意図的に男女関係なく話せるように促していく。
第5学年	○ペアやグループでのやり取り、ALTの先生との交流を積極的に取り入れることで、会話を楽しむことができた。 ○アルファベットの習熟を帯活動で行ったことで、定着してきた。 ○ALTの集中配置に向けてのスピーチ準備を意欲的に行うことができた。	○単元ごとに学習するワードやセンテンスを何度も練習すると、自信をもってALTの先生と会話をしたり、友達と英語で交流をしたりすることができた。 ○ALT集中配置によるスピーキングテストに向けては、今までに習った内容を駆使してスピーチを作った。友達同士で聞き合うことで、本番では自信をもってスピーチをすることができた。 ○リスニングは、流す音声のスピードをゆっくりにしたり発音練習をしたりすることで聞き取れる児童が増えた。 ○アルファベットタイムで、写し書きをしたり、音声で十分慣れ親しんだ表現を書いたりできるようになってきたが、個人差がある。	○授業スタートでは、毎時間天気、日付、曜日について質問する。特に日付については授業のたびに言い方が変わるので、確認しながら定着させていく。 ◎教科書別冊のPicture Dictionaryを使って、単元で学ぶ単語の学習を行う。デジタル教科書の音声を読みながら教科書別冊を見たり、スピーチを考える時には自分の伝えたい内容に適した言葉を探したりできるようにする。音声と絵とスペルをいつも組み合わせることで学べるようにしていく。 ☆デジタル教科書を活用し、リスニング力を高める。デジタル教科書の音声は、スピードを変えて流す。初めは通常の速さで流し、次にゆっくり流すことで学習した単語を聞き取れるようにしていく。少しずつスピードを通常に戻すことで、リスニングに慣れさせていく。 ○単元の終わりには、学習した表現を活用したスピーチを行う。学習してきた中から自分の伝えたいことを選択することで、英語を苦手と感じている児童にも安心感を与える。学習した表現を組み合わせればスピーチ原稿が完成するようなカードを作成し、ALT集中配置でALTの先生に何度も発表することで、英語の学習に対する苦手意識を取り除けるようにする。
第6学年	○ペアやグループでのやり取り、ALTの先生との交流を積極的に取り入れることで、会話を楽しむことができた。 ○アルファベットの習熟を帯活動で行ったことで、定着を目指せた。書くことも、無理のない内容で継続したことで、アルファベットの大文字・小文字を認識できる児童が増えた。 ○活動の中で、外国語に対する意欲には個人差が見られた。	○外国語に対する興味をもち、主体的に学習に取り組んでいる児童が多い。 ○5年生までの学習で理解できるようになった単語も多く、教科書教材のリスニングでは、文章全ては分からなくても、単語から何を話しているのか推測できるようになってきた。 ○写し書きをしたり、音声で十分慣れ親しんだ表現を書いたりできるようになってきたが、個人差がある。 ○ALTの集中配置を活用し、ALTに自分のことを話す機会を多く作り、話すことに慣れてきた。 ○台本は覚えて、本番では見ないようにすることによって、相手に伝わるように話したり、一生懸命その場で考えて伝えようとしたりする意識が高まってきた。	○授業スタートでは、毎時間「天気、日付、曜日」について質問する。5年生の時から続けているが、日付についてはまだ定着できていないので、今後も続けていく。 ◎教科書別冊のPicture Dictionaryを使って、単元で学ぶ単語の学習を行う。デジタル教科書の音声を読みながら教科書別冊を見たり、スピーチを考える時には自分の伝えたい内容に適した言葉を探したりできるようにする。音声と絵とスペルをいつも組み合わせることで学べるようにしていく。 ○alphabet timeを毎時間設定し、大文字・小文字をしっかり定着させる。 ○担任が手本として自分のことを話すことで、学ばせたい表現を聞き慣らし、自分のことを話したい意欲につなげる。 ◎単元の終末にはその単元で学んだ言語表現を使い、自分で調べたり工夫したりしながら自分のことを文章に表現する活動を取り入れる。 ☆日常生活に密着した場面を想定した教材を取り入れることで、英語に親しんだり、必然性をもって学習に取り組んだりできるようにする。

三鷹中央学園三鷹市立第七小学校 令和8年度【道徳】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○毎回ワークシートを活用し、自分の考えをもって話し合いが行えるようにした。自分の意見が表現できない児童には、友達の意見を参考にして自分の考えを書くように指導することで、自分の考えをもてるようになった。 ○教材によっては、役割演技を入れた。役割演技をすることで、登場人物の心情により近づくことができた。 ○自分だったらどうするかを想像することが、実践意欲の高まりにつながった。	○道徳の授業では、何を学ぶのかどんなことを考えるのかということを理解して学習を展開できるようになってきた。 ○資料の教材に興味をもち、自分の身の回りや今までの経験から話をしたり共感したりすることができた。 ○自分の考えを積極的に発言したり書いたりできるようになってきたが、相手の話を聞いたり視野を広げたりすることは難しい児童がいる。 ○道徳的価値について理解しているが、自分の生活の中で実践していこうとする意識には個人差が大きい。	○資料を提示しながら学校生活や自分の日常生活での場面に落とし込んで紹介したり、映像や写真の資料を活用したりすることで児童の想像や理解を促した。 ○1学期は、自分の考えを書くようなワークシートではなく、自由に発言をする場を設定し、授業での振り返りを色を塗ったり丸を付けたりして自己評価する。 ◎役割演技を設定し、登場人物の様子や心情を考えやすくする。 ○2学期からは、意見をワークシートに書いたり、ペアやグループで話し合ったりする時間を積極的に取り入れ、自分の意見や考えに自信をもったり多様な意見に気付いたりすることができるようになる。 ☆授業で扱った道徳的価値について授業のときだけではなく、話し合ったことを教室に掲示したり日常生活の中で声をかけたりすることで実践力を養う。
第2学年	○教材の中の出来事を想像ができない児童には、類似する他の場面を提示することで、資料の内容を想像することができた。 ○どの内容も自分事として捉えらるるように、提示していった。振り返りでは日常生活でどう意識して過ごしていくかを考えていくようにしたが、なかなか日常に重ねることができない児童もいた。内容だけでなく、日常場面の他の例示を示していく必要があった。 ○自分の意見を他者と比較していくようにすることで、同じような意見や異なる意見に気付く児童がいた。今後は、それを踏まえて自分の意見を再構築できるようにしていく必要がある。	○登場人物の心情や状況を捉えられない児童が数名いる。 ○学習内容が日常生活の中で、どんな場面が当てはまるのかを結び付けられない児童がいる。 ○道徳の授業に対して、考えるということに消極的な場面が見られ、自分の考えをもてずにいる児童がいる。 ○日常の中で、道徳的価値に気づき、実践していこうという意識をもって過ごす児童があまり多くない。	○ICT機器を活用し、映像として提示したり、CDでの朗読を聞かせたり、類似する他の場面を提示することで、資料の内容の理解を深められるようにする。また、モデリングをして、道徳的価値に気づきやすいようにする。 ◎教材の内容が、自分たちの日常の中だったらどんな場面があてはまるのかを考え、全体で共有する時間を取る。その上で、自分事として捉えられるようにする。 ☆個人で意見を考えた後、考えられた児童も考えられなかった児童も情報共有する時間を取り、その中で、様々な考えに触れ、自分に近い考えを意識できるようにし、自分の考えをもてるようにしていく。 ○日常の中で、教材を振り返り、どうしていくべきだったのかを自分たちで振り返ることができるようにする。
第3学年	○教材の登場人物と自分を比較したり、「自分だったらどうするか」考えたりすることを通して、自分事として捉え、考えを深めたり広げたりすることができた。 ◎全体での振り返りの発表を通して、自分とは異なる考えに触れさせ、考えの幅をもたせることができた。 ○ペアやグループでお互いの意見を聞き合う時間を十分に設けることで自分の考えを見つめ直し、深めることができた。 ○各教科で学習したことや、日常生活での気づきを授業の中で取り上げることで、自分事として捉える児童が増えた。	○日常の出来事や、身近な題材を行う際には、自分の今までの言動を振り返り、自分事として考えることができる児童が増えてきた。 ○ワークシートに書くことはできても、自信がもてず、意見として発言できない児童がいる。また意見をもつことが難しい児童もいる。 ○対話や話し合いにより、自分の考えと友達の意見を比べたり、意見の良さを考えたりすることができ児童が多い。ただし、そうした意見を参考にしながら、自分の考えを深めたり広げたりすることには課題がある。	○行動に潜在している心情や本音等を、聞き出す質問をしたり、板書の仕方などを工夫したりし、ねらいにせまりやすくする。 ○自分の考えを書いたり、まとめたりする時間を確保する。またその際には机間指導をすることで、記述した意見を肯定的に価値付け自信をもたせる。 ◎ペアやグループ、全体で意見交換を積極的に取り入れ、表現したことを価値付けをしていく。また、様々な角度からのものの見方や考え方を体験させながら、よりよい課題解決の方策を考えさせる。 ☆各教科で学んだこと、体験したことを活かし、内容項目に関して考えさせる。また、自らを振り返って成長を感じたり、これからの課題や目標を見付けたりする時間を設ける。
第4学年	○導入でネームマグネットを使用し、自分の考えを黒板上に示す。まとめの時間にはじめの自分自身の考えを確かめることで、自分自身の変化や成長に気付くことができた。 ○教材の登場人物と自分を比較して自分事として考えられるよう発問を工夫することで実生活にも生かすことができた。 ◎グループワークや振り返りの共有の場を積極的に設定することで、自分以外の考えや価値観を知り、深めることができた。	○日常の出来事や身近な題材だと、登場人物の心情や行動に対して、自分の考えを表現できる児童が多い。 ○友達の考えや意見について、自分の考えと比較しながら聞き、その良さを認めることができる児童が多い。しかし、その意見をもとに再考したり、考えを広げたりすることは難しい児童がいる。 ○自分が感じたことや考えたことを文章に書いたり、言葉で表したりすることが苦手な児童がいる。 ○自分が経験したことがないような出来事について、もし自分だったらという自分事にして想像しながら考えることができない児童がいる。	◎ペアやグループの話し合い、役割演技などを積極的に行い、様々な角度からのものの見方や考え方を体験させながら、よりよい課題解決の方策を考えることができるようにする。 ◎自分の考えをまとめる個人の時間をしっかりと取り、個別で会話をしながら具体的な意見を引き出していく。 ○友達との意見交流の際、友達の考えを色を変えてメモさせることで、自分の考えと比較できるようにする。 ○発言した意見を板書し、自分の意見に近いものをネームプレートで示させ、全員が自分の意見を伝えたり、視覚的に意見を比較したりできる機会を増やす。 ☆1単位時間の授業にとどまらず、既習の内容を振り返るなどすることで、同じ内容項目の理解を深めたり自分の考えを広げたりできるようにする。
第5学年	○登場人物の心情を多角的に考えられるように学習の流れを工夫し、素直な考えを引き出すことができた。 ◎ペアやグループなどを工夫し、自分とは異なる考えに触れさせ、考えを深めることができた。 ○役割演技を取り入れることで、より登場人物の心情を深く考えることができた。	○日常の出来事や身近な題材だと、資料から心情や行動を考え、自分と比べることができる。 ○自分の考えをワークシートやノートに書くことが苦手な児童や発表できない児童がいる。 ○友達の意見を聞いたり、ワークシートやノートを読んだりすることで、ものの見方や考え方を多面的・多角的に広げることができている。 ○即時アンケート等を利用して学習する内容項目について見通しをもったり共通理解を図ったりすることで方向付けている。	◎ペアやグループなどを工夫し、自分とは異なる考えに触れさせ、考えを深める。また、全体での振り返りの発表を通して、価値にせまる。 ○机間巡視の際に児童と対話しながら多様な意見を認め、自信をもてるようにする。 ○具体的な場面のイメージをもって自分の生活の中で似たような経験がないか、その時の気持ちを想像できるようにする。 ☆自分事として捉えることができるように、ネームカードやアンケートなどを利用し、今の自分の考えを明確にして考えられるようにする。
第6学年	○学習している内容項目について、多角的に考えられるように、学習の流れを工夫することで素直な考えを引き出すことができた。 ◎ペアやグループなどを工夫し、自分とは異なる考えに触れさせることで、考えを深めることができた。 ○ワークシートを工夫したり、導入で学習用タブレット端末を活用したアンケートを実施したりすることで、学習内容に対する具体的なイメージをもてる児童が多くなった。	○自分の考えをワークシートやノートに書くことはできても、発表できない児童がいる。 ○友達の意見を聞いたり、ワークシートやノートに書かれた考えを読んだりすることで、ものの見方や考え方を多面的・多角的に広げることができている。	○登場人物の心情を多面的に考えられるように発問の流れを工夫し、素直な考えを引き出すようにする。 ◎ペアやグループなどを工夫し、自分とは異なる考えに触れさせ、考えを深める。また、全体での振り返りの発表を通して、価値にせまる。 ○ワークシートの構成を工夫し、具体的な場面のイメージをもって自分の生活の中で似たような経験がないか、その時の気持ちを想像できるようにする。 ☆自分事としてとらえることができるように、ネームカードやアンケート、役割演技などを利用し、今の自分の考えを明確にして考えられるようにする。